

E-1

Human Ecology における 統合家政学の発展と社会的役割

- 複核文明における地域家政学の社会的役割 - (才一版)

ヒューマンエコロジー研

松田吾美子

目的

Like placid Conferensの基本家政学会から 21世紀を舞台とした家政学は、今日歴史的發展のアロセスとして社会的責任に向かっている。家族を中心に置く家庭生活を対象とした家政学は現代の複核文明の社会構造の中で、人間の生存に関する環境問題において 快適な生活の創造と実践をめぐり統合家政学の理念の解明と具体的な実践プログラムを地域社会へ展開することにより社会的責任のこころの方向性を明らかにしたい。

方法 / 複核文明の現代と地球文明の Back Ground.

2 天然エコシステムと Human Ecology

3 生命の尊厳と基礎人格形成の原素 — 家庭文化と家政学

4 社会形成素 (philia) と Human Ecology としての家政学

5 統合家政学をめぐり家庭計画プロジェクトによる地域家政学への発展

6 統合家政学の構造

結果 人間の生存は取巻く環境 - 自然と社会環境 及び外部、内部環境の相互作用により 多様な生き方を個人、家族、地域社会、各段階の固有な文化に支えられ伝承と創造の中で遂行してきている。生命の誕生と成長を促す家政学(家庭生活を対象)は、新しい21世紀に向けて 人間性の回復とその尊厳の確立のために、人間の生存の意義と、生活環境のよりよい向上を Human Ecological の立場から 経済学との学際的な統合を試みざるを得ない。今回はその大枠をまとめた。